



福島市小中学校PTA連合会

福島市連P会報

ゆきうさぎ

Vol. 84
2025. 3. 3

(発行) 福島市小中学校PTA連合会
会長 二階堂美樹

(編集) 広報委員会
委員長 内池 健治

(印刷) 株式会社クサ力印刷所
福島市東浜町7-35

いつも福島市小中学校PTA連合会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

各単位PTAでは、学校からの協力依頼に応じて行事や見守り活動に取り組んでおられることと思います。この活動の根底には、皆さまの子どもたちへの深い愛情と、学校を支える強い思いがあると感じています。保護者の皆さんは、学校にとって欠かせない「最強のサポーター」



保護者は学校の一番のサポーター

福島市小中学校PTA連合会

会長 二階堂 美樹 (森合小)

であり、子どもたちの学びと成長を支える大きな力です。「安全に登下校させたい」「より良い学習環境を整えたい」「先生方が子どもたちにもっと関われるようにしたい」など、子どもたちの未来のためにさまざまな願いを胸に、日々努力を続けてくださっています。

一方で、教職員の働き方改革が進む中、従来通りの方法では対応が難しい場面も増えていきます。単位PTAの活動を通じて、学校や先生方と課題を共有し、保護者としてできることとそうでないことを明確にすることが重要です。



目指しましょう。

保護者の皆さんが「ちよつと」ずつ協力することで、学校という場所（ハ）で子どもたちの教育、健全な発達を守って行きます。

単位PTAだけで解決が難しい課題は、市連Pを通じて市や教育委員会に要望し、共に解決を



「未来へ」

福島市小中学校校長会協議会

会長 嶋 原

理 (福島一小)

福島市小中学校PTA連合会並びに各単位PTA、そして、会員の保護者の皆様には、日ごろより、子どもたちの豊かな成長と健全育成にご尽力をいただいていることに心より感謝申し上げます。

さて、十一月に亡くなられた詩人の谷川俊太郎さんが、混声合唱曲集のために書いた「未来へ」という詩があります。私は、この詩が好きで、昨年度の卒業

式の式辞で紹介させていただきました。紙面の関係で、全文をご紹介しますことはできませんが、過去に思いを寄せ、悠久の時の中を生きてきた人間の姿を歌ったこの詩は、次の印象的な一節で幕を閉じます。

未だ来ないものを
人は待ちながら創っていく
誰もきみに
未来を贈ることはできない
何故なら きみが未来だから
学校にあって、日々子どもたちと接していると、まさに子どもたちこそが「未来」そのものなのだ、強く感じます。私た

来」に向かつて、力強く歩みを進めることができるよう見守り、支えることはできるのだと思います。学校と保護者の皆様が手を取り合い、私たちの「未来」を、共に大切に育てていきましょう。



ち大人は、子どもたちに「未来」そのものを贈ることはできませんが、自らの「未来」

「松陵義務教育学校の開校にむけて」

松陵中学校 校長 阿部 洋己

令和七年四月に「松陵義務教育学校」(以下、本校と表記)が開校致します。福島市で初の義務教育学校ですが、国の制度改正により平成二十八年(令和六年)から小学校・中学校に加えて義務教育の校種とされたものです。本校は、県内でも最大規模の義務教育学校となることと予定されています。

本校の前身である、松川小学校、金谷川小学校、下川崎小学校、松陵中学校は、令和七年三月でそれぞれの歴史に区切りをつけることになりました。そして、現在の松陵中学校の学区である松川地区全域の義務教育を、九ヶ年一貫して行う学校として本校の歴史がスタート致します。

- ①校訓(教育目標)
- ②学校名
- ③校章・校歌
- ④制服・運動着等
- ⑤施設や通学方法、その他

ここでは、建学の精神として定められた校訓「歳寒松柏(さいかんしょうはく)」について、紹介させていただきます。この言葉は論語からのものです。人生において厳しい状況に直面したとき

も、自分自身をしつかりと持ち、折れない、諦めない芯の強い心を持ち続け、困難を乗り越えることが出来る資質・能力を、九年間の学びや経験から身に付けさせたい、との願いが込められています。

校歌については、作詞を和合亮一先生、作曲を大友良英先生に依頼して既に完成しています。一年生から九年生までの子どもたちが、それぞれの発達段階にあわせて歌える、様々な配慮や工夫のされている素晴らしい校歌です。

また、「生活科」や「総合的な学習の時間」等を通して、九年間を貫く、地域を学び理解する探究的な学びを行います。特に、八・九年生において、(総合的な学習の時間)を学年を縦割りにしたゼミ方式を導入します。地域の課題解決等のテーマを設定して、対話的で深い学びに繋がる学びを推進していきます。

他にも、九つの学年があることで学べること、経験できること、義務教育学校の良さが生かせる学校としての特色を出していきたいと考えております。



4月開校の松陵義務教育学校の校章と校舎

家庭教育推進委員会

委員長 大槻 吉弘
(平野小)

令和六年度の活動を振り返って

令和六年十二月七日、福島県青少年会館にて、「子どもたちの人生を豊かに育む教育」子どもたちの心の健康を守る親子関係について」をテーマとし、東京医療保健大学看護学科教授で、健康科学



これまで全国で「通算二〇〇〇回」を超える講演を行い、現在も様々な悩みや問題を抱える子どもたちと、「最前線」で向き合い活動されている渡倉先生。「様々な実験」や「最新のデータ」をもとに、日々成長し、変化して

教養委員会

副委員長 松浦 洋三
(南岡台小)

当たり前の反対語は…?

教養委員会は私たち保護者自身が子育てに関する教養を深め、また気づきを得るための講座を開催しております。今年度は十月四日（金）十三時より、テレビユー福島（奥秋直人さんを講師に迎え、「今、知っておきたい言葉の大切さ」）現役アナウンサーが大事にしている伝え方をテーマとして講演いただきました。ご自身の経験から、アナウンサーとしての言葉の使い方、伝え方で気を付けていることや自身も親として気を付けていることなどについてお話頂きました。VTRを流しながら、アナウンサーが聞き役として相手の話を上手に引き出している場面や、アナウンサー同士のビブリオバトル番組を例にアナウンサーの



ゆく子どもたちが、自分の体や心の変化にどんなことを感じ、どう向き合っているのか、また、そんな子どもたちと、親としてどのように向き合っていくのが良いかなど、とても勉強になるお話でしたという感想が会場の皆様より



多々寄せられました。聞いている私たちも、自分の小学生の時のことを思い出し、先生の質問に挙手しながら、楽しんで聴き聞いていました。子どもたちの「自己肯定感」を高めたり、「思春期」に入



してからしゃべるようにしていること、短い原稿を話すときでも、大変な努力をしているといった話にプロ意識の高さを感じました。

講座の最後に、題名にある「当たり前の反対語は何でしょうか？」と問いかけがありました。私自身仕事の関係で偶然知っていたので答えられましたが、正解は「有難い」です。何事も当たり前ではないからありがたい、家族や周りにありがたいという気



広報委員会

この一年を振り返って

り悩んでいる子どもたちと向き合ったりするためには、親である私たち一人一人が、パートナーや子どもたちに、自分の言葉で「大切に思っているよ」と伝えることが大事だと感じました。その言葉こそが、これから大人になつてゆく子どもたちの「心の健

本年度広報委員長を務めさせていただきます。瀬上小学校の内池健治と申します。広報委員会の活動の主たるものは、各小、中学校の広報紙コンクールの開催と、市連Pの広報紙「ゆきうさぎ」の発行です。

まず、広報紙コンクール開催の目的、意義であります。委員が集まり、各校の紙面をそれぞれ読み比べ、各校の活動をj知ることj勿論、それぞれの紙面への工夫・構成のこだわり等を学び、各校へと持ち帰り、更に読みやすい・伝わりやすい紙面作成へと生かすこと、ひいてはより良いPTA活動に繋がることだと考えます。コンクール時、集まった委員が決められた時間内で審査をしますが、それぞれ工夫を凝らした広報紙が、選考側も真剣勝負といった感じで、非常に悩ましい、難しい審査でありましたが、本年度も無事選定することができました。構成や、紙面内容、写真の入れ方など、参考にした工夫が随所にみられ、非常に刺激になる場



委員長 内池 健治
(瀬上小)

様・副会長様・家庭教育推進委員の皆様には、「全体研修会」の開催に向けて「研修内容と講師選定」の検討、当日の「研修会の運営」に関して大変お世話になりました。おかげ様で、無事終えることができました。ありがとうございました。

中でも、より細かく、見やすくするために、媒体の変更なども視野に入れてはどうかという話も出ました。現代に合ったネット活用も選択肢の一つにありますが、当委員会においては今後どのような形が一番情報を伝えられるのか考えることも大きな課題として引き続きとなります。

最後に、広報紙コンクール「ゆきうさぎ」作成にあたりご協力頂きました多くの方に感謝と御礼を申し上げます。

財政委員会

委員長 幕田 普市
(御山小)

財政委員会の活動について

日頃より福島市PTA活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。今年度、財政委員長をつとめさせていただきました幕田です。財政委員会の活動について報告させていただきます。財政委員会では、教育予

担が増えていたため、教育予算を有効に活用いただき、課題解決の一助となるよう活動を進めました。令和六年度要望書の内容を踏まえながら、福島市の未来を担う子どもたちのために、諸問題の解決のため七項目に絞り要望をまとめ、特に前半三項目については重点課題と位置付け、要望を行いました。

一、子ども一人ひとりの学びを保障する教育の充実
二、学校の教育環境の充実
三、教職員の働き方改革の推進
四、通学路の安全確保



健全育成委員会

テーマは「心」

コロナ禍で数年中止されていた活動を昨年完全再開させた本委員会。その苦労や思いと共に資料を昨年の委員長か



五、コミュニケーションスクールの導入
六、学校のICT化
七、児童生徒の資質・能力
具体的な活動スケジュールは以下の通りとなります。

五月三十一日 事務引継ぎ
・前年度担当校より活動内容の説明と関係資料の引継ぎ
七月十二日 第一回財政委員会

・年間事業計画の立案
・事業計画の決定とアンケート内容の検討
・各単Pへアンケート記入の依頼と集計
九月三十日 第二回財政委員会

・単Pの要望事項集計と要望内容の検討
・教育予算確保の要望文作成と関係機関への要望
・要望記載事項の決定
十月三十日 要望書提出
今後、要望の回答書を各学校へ配布し、総括を行い、次年度に引継ぐ予定です。一年

委員長 佐藤 豊
(松陵中)

ら引き継いだところから今年はスタートしました。
引継ぎ後まず、担当校である松陵中学校の校長先生と教頭先生に相談を行い講師依頼から始めました。講師は福島大学特任教授の阿部郁子先生に昨年同様「心」をテーマに講演をお願いし、快くお引き受けいただきました。
講師が決まったところで第一回目の健全育成委員会を行

厚生委員会

委員長 野地 幸次
(信夫中)

市連P会員の親睦の図り方

PTA会員同士の親睦を図る催し物は、専門委員会では企画する時間的余裕はなく、今年度の事業計画に敷かれたスケジュールに焦りと不安が入り乱れ、右往左往している中、市連P本部役員の強力な助っ人と結束力に救われ、委員会活動を滞りなく遂行できたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。
今年度も昨年同様、PTA親善ソフトボール大会の開催と福島市家庭バレーボール大会の運営補助に関わりました。参加された会員の皆様方の親睦に少しでも貢献できたのなら幸いです。

PTA親善ソフトボール大会は六月十六日(日)に荒川運動公園で中学校校合せて三十九校から参加がありチー
い、日程や講義内容について協議し、第二回目の委員会でも活発な意見交換を重ねることができました。
研修会当日は夕方の遅い時間からの開催にも関わらず、百名を超える皆様にご参加



館)で行われ、小学校の部十二校、中学校の部十校と少ない参加チーム数ながらも大会は盛り上がり、コート内で声を掛け合いボールをつなぐ選手姿、それを一生懸命応援する関係者の皆様の姿に会員同士の親睦が図られている様



子を伺うことができました。
準備・運営は大変でしたが、ソフトボール、バレーボールに参加してくれた会員の皆様、大会運営に関わってくれた皆様、本当にありがとうございました。次年度は一会員として参加したいと思

進路対策委員会

福島地区進路対策委員会の活動について

委員長 都築 真純
(清水中)

九月十三日(金)、委員長・副委員長二名・事務局長(清水中学校長)の四名で、県北地区私立高校四校を訪問し、県北地区すべての中学校からの要望を集約した、「令和七年度私立高等学校への入学試験にかかわる要望書」をそれぞれの高校の校長先生に直接お渡ししました。
要望書の内容は、私立高校受験に係る出願などの事務手続やその方法の統一、受験日に関する事項、統一入学金などの値上げの保留、さらには東日本大震災の被災者や、何らかの理由で特別な支援の必要な生徒への配慮など、全八項目の内容です。
各校長先生方には、その八項目について、具体的かつ詳細にお話させていただいたところ、すべての校長先生からそのほとんどの要望に対応している旨のご回答をいただきました。特に、出願事務に関しては、昨年度からほとんどの私立高校で同じシステムを用いて、足並みを揃えているということでした。ただし、入学金や授業料に関しては、値上げは考えていない高校も



ありました。この物価高騰による諸費の増大などの理由から、約束はできないというお話もありました。しかしながら、経営者として、生徒・先生・学校を守っていくため、様々な企業努力をしながらの判断になる、とのことでした。どの校長先生からも、それぞれの熱い思いにとても感銘を受けました。
今回、大役を任せられ、各高校の校長先生であり、経営者でもある方々とお話をする機会をいただき、少子化が進む中、生徒数を確保するために相当な努力をされていること、そしてどの高校も、とても熱い思いで生徒たちを見守り、サポートしていることをひしひしと感じました。
県北地区や親世代は、まだまだ「公立高校への進学」を期待する傾向が強いものと思われ、私立高校ならではの熱い思いで生徒を教え、そして導いていただいていることが肌で感じられ、ぜひとも子どもを通わせてみたいと考えさせられた、貴重な体験となりました。

福島県PTA研究大会郡山・田村大会

変わりゆく時代の子供たちとPTA

福島県小中学校
PTA連合会

副会長 御代田 功 二(鎌田小)

今回福島県PTA研究大会郡山・田村大会に参加させていただき、時代の変化と共に子供たちを取り巻く学習環境や様々な困難に苦しんでいる状況をあらためて学ぶことが出来ました。福島県では今年度より不登校に悩んでいる子供たちを受け入れる夜間中学校が開校し、来年度からは九年制の義務教育学校も始まります。これまでに以上に子供たちに寄り添った環境づくりが

必要だと感じています。全体会でご講演いただいた玄侑宗久先生からは、どんなことに對しても否定せず、受け入れる気持ちとすべての人が個を大切に考え、互いを認め合うような心を持つ大切さをお聞きしました。

また全国学習塾協会会長を努めている安藤大作さんから、オンライン支援学習等を用いた文部科学省の「出席扱い制度」を教えていただき保

護者の負担軽減にもこういったものを広げていければと思いました。子供たちの教育環境の充実を図ることは子供たちの安心を守ることであり、私たち保護者の安心を感じられることにも繋がります。

今年度のコロナ禍を経てPTA活動への必要性やすめ方考える学校が増えています。これまで通りの活動を続けることは、新しいことを考えずに出来る一方で活動の意図や存在意義を見出せず負担だけが残ってしまいます。今後PTAを持続していく為

には、大変でも時代の変化を受け入れ必要なかたちにしていくことは重要だと考えます。未来ある子供たちの成長は見守るのではなく、人を尊重する姿勢や協力するところを子供たちに見せながら一緒に成長していけるよう保護者と学校がお互いに負担を補い合い、教員の働き方改革も考慮しながら、PTAに正解はないと思つて子供たちの安心を第一に今後も連合会活動へのご理解ご協力の程、宜しくお願いいたします。



福島市立福島第四中学校 天神スクールについて

福島市立福島第四中学校天神スクール校長 渡部 正晴

本校は令和六年四月に開校した福島市公立夜間中学となります。夜間中学は様々な事情により義務教育を受けることができなかった方が、夜間に授業を受けることができる中学校です。本校に入学することが出来る方は、福島県内に居住しており、学齢を超えている方(その年の三月三十一日までに十五歳になっている方)で、以下のいずれかに該当する方が対象となります。

- 一、中学校を卒業していない方
- 二、中学校を卒業しているが、不登校等の相当な理由により十分な義務教育を受けられなかった方
- 三、在留資格のある外国籍の方

方で、日本の義務教育に相当する教育を受けられなかった方
本校での学習を修了すると、中学校の卒業資格を得ることが出来ます。教科書は無償で給与され、授業料はかかりません。授業は土日・祝日を除いて、平日五日間あります。学習する教科は昼間の中学校と同じで、授業は教員免許をもっている公立学校教員が教えます。

現在、本校には一年生十八名、二年生一名、計十九名の生徒が在籍しております。授業は、一校時目が十七時二十分に始まり、一日に四十分の授業を四コマ実施し、二十時三十分下校します。本校では、生徒一人一人の



開校式 入学式

校外学習(立子山)

授業の様子

本校では体験活動の充実を教育活動の柱の一つとしています。今年度は、校外学習、スポーツ大会、教育講演会、学習発表会等を開催しております。天神スクールは、年代や国籍の違いを超えて学び直しのできる学校で、常に生徒を真ん中に置いた、生徒が主役の教育に取り組んでおります。

PTA活動に思うこと
『ゆきうさぎ第八十四号』をお読みいただきありがとうございます。さて、数年に渡るコロナ禍下の様々な制限が昨年度からほぼなくなり、学校行事はもちろん、PTA活動についても徐々に再開されるようになってきました。コロナの影響で、これまで行われてきたPTA活動が、十分に引き継がれぬまま世代交代となり、手探りで活動を再開させなければならない現状を抱えているPTAもあるかと思えます。また、活動の極端なスリム化を

し、コロナ前に行っていた活動が本当に必要な活動であったのか、取捨選択や活動のブラッシュアップに悩むPTAもあるのではないかと思います。一方、子どもを取り巻く環境は、様々な問題を抱えています。子ども達が希望を持ち、力強く未来を切り拓いていけるよう、PTAが学校と地域、保護者と子ども達をつなぐ存在であり続けられるよう貢献したいと思えます。そして、この広報紙が、これからもその一助になれば良いと思います。

令和6年度 市連P広報委員名簿

No.	学校名	会員名
1	瀬上小学校	内池 健治
2	福島第二小学校	丹野 勇弥
3	飯野小学校	齋藤 智之
4	三河台小学校	笹川 純
5	立子山小学校	寺島 正嗣
6	吉井田小学校	齋藤 和人
7	月輪小学校	橋本 翔
8	余目小学校	渡邊 晴光
9	平田小学校	奈良輪 大輔
10	福島大学附属小学校	佐藤 充孝
11	福島第二中学校	真田 広志
12	岳陽中学校	渡辺 研也
13	福島大学附属中学校	佐藤 永之

最後に、この広報紙作成にあたり、今年度はとくに原稿校正を早めたことにより各委員会の皆様に短期間での紙面作成にご協力いただいたことに御礼申し上げます。
(広報副委員長 丹野 勇弥)

令和6年福島市連P広報紙コンクール

最優秀校は

福島第二小学校
福島第一中学校

小学校の部

- 最優秀校 福島第二小学校
- 優秀校 三河台小学校
- 優秀校 鎌田小学校
- 優秀校 佐倉小学校
- 優秀校 下川崎小学校

中学校・特別支援学校の部

- 最優秀校 福島第一中学校
- 優秀校 大島中学校
- 優秀校 松陵中学校

